



どうして赤ちゃんは

なんでも口に入れちゃうの??



生後1、2ヵ月頃から見られる指しゃぶりやこぶししゃぶりに始まり、ハイハイや歩行ができ始めるとお部屋の中やお散歩の時に手当たり次第になんでもパクリ！と口にしてお母さんはヒヤヒヤ…。目が離せなかったり、ばい菌や病気は大丈夫かと心配したりすることがあると思います。どうして赤ちゃんはなんでも口に入れてしまうのでしょうか？

#### 理由1：母乳やミルクを飲むために持って生まれた原始反射(哺乳反射)の影響

生後1、2ヵ月頃から見られるこぶししゃぶりに関係があるのが吸啜反射(きゅうてつはんしゃ)で、偶然こぶしが唇に触れて反射的に吸い付こうとして始まります。また、指やこぶしを吸うことで授乳中に似た感覚が得られ、赤ちゃんの気持ちを落ち着ける効果もあります。



#### 理由2：味や形の確認をして自分の手や足を認識している

赤ちゃんが自分の意思で手足を動かせるようになると、口で確認することで自分の身体が自分の一部であることを確認するようになります。

こぶししゃぶり  
足しゃぶり



自分の身体が自分の一部であることを  
確認する行動

#### 理由3：手や足で遊んでいる

赤ちゃんは自分の身体もおもちゃにして遊びます。自分の手足で遊びながら新しい動きを学習していくのです。

#### 理由4：口で物を確認している

赤ちゃんは目や手で物を認識する力が未熟な分、物の形や感触を舌で見分ける能力が備わっています。口にくわえることで『硬い・柔らかい』『大きい・小さい』『温かい・冷たい』などを判断しています。

#### 理由5：歯茎がかゆい

乳歯が生え始める頃は歯茎がむずがゆくなることもあり、色々な物を噛むことでかゆさや違和感を解消しようとします。



次号では、赤ちゃんのなんでも舐める行動による  
身体への影響と対策についてお伝えします！